

1. 事業説明シート

(区分) 国補・県単

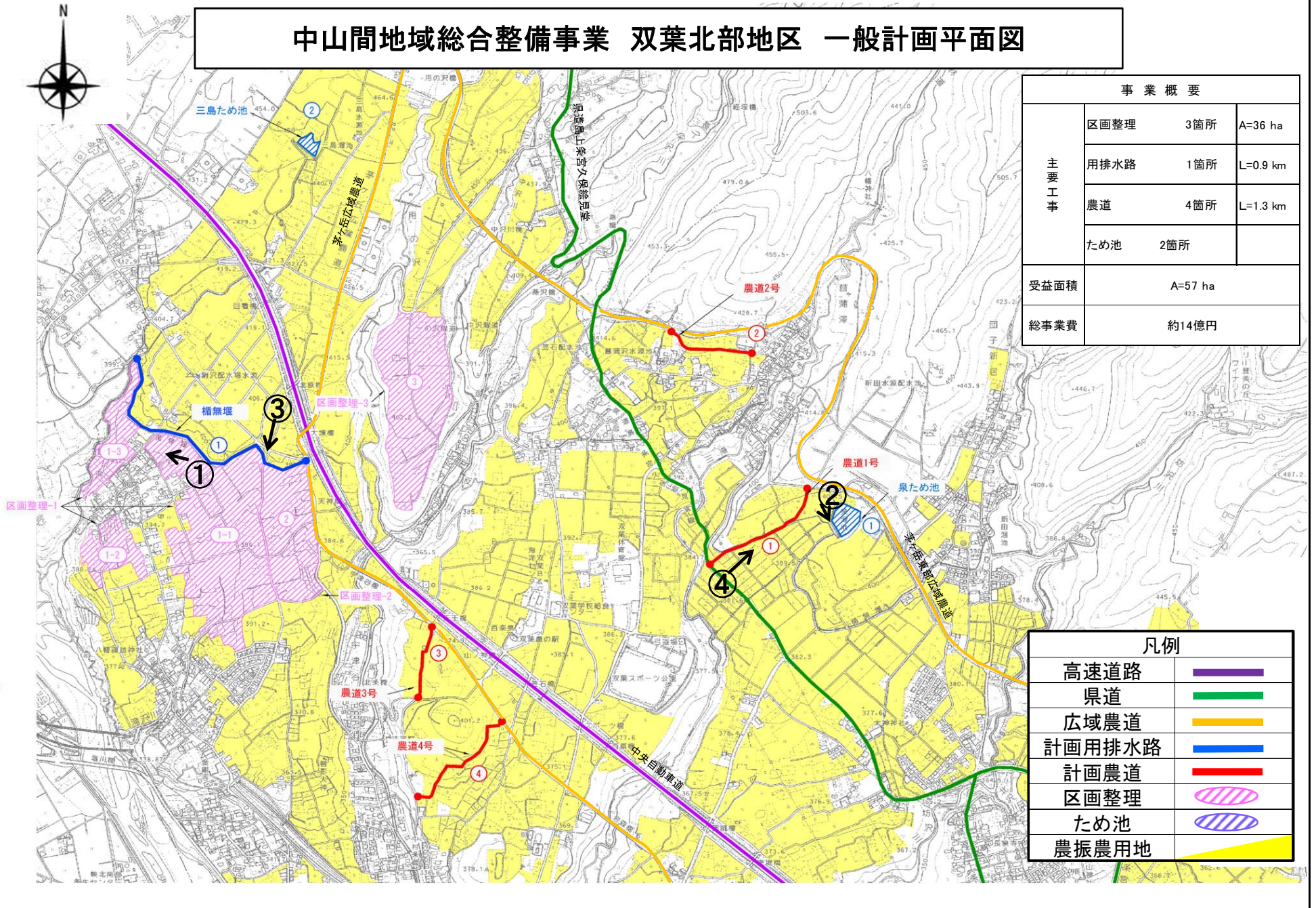
事業名	事業箇所	地区名	事業主体																		
中山間地域総合整備事業 (国補)	甲斐市菅蒲沢 他	双葉北部	山梨県																		
<p>(1) 事業の概要</p> <p>①課題・背景 本地区は甲府盆地の北西部に位置し、水稻・野菜・果樹栽培が複合的に行われている農業地域である。 しかし、農業従事者の高齢化や後継者不足、耕作放棄地の増加など多くの課題を抱えており、営農労力の節減や生産性の向上を図るための農道、農業用排水路の改良や担い手へ農地の集積を促進するための区画整理などの生産基盤の整備が喫緊の課題となっている。 一方で、本地区は中央自動車道の韮崎IC及び双葉スマートICの近傍に位置する恵まれた立地条件にあることから、交流施設や観光農園を中心とした収穫体験や農産物の直販などの新たな取り組みが進められている。 このため、本事業により農業生産基盤の総合的な整備を実施し、営農条件の改善を図るとともに観光と連携した新たな農業を促進することで地域の活性化を目指すものである。</p> <p>②整備目標・効果</p> <p>□主要目標 ○中山間地域等の農村生活・生産機能の向上 ・農業所得の増加額 1,743千円/ha ≥ 1,203千円/ha ※</p> <p>□副次目標 ○農業用排水能力の向上 ・施設老朽度 (耐用年数40年) - (経過年数52年) = -12年 ≤ 0年 ※ ・排水能力向上率 $(\text{計画排水能力} 3.02 \text{ m}^3/\text{s}) \div (\text{現況排水能力} 3.02 \text{ m}^3/\text{s}) = 1.0 \geq 1.0$ ※ (※評価基準値)</p> <p>□副次効果 ○遊休農地の解消 ○農地の保全 ○重要プロジェクトとしての位置づけ (やまなし農業ルネサンス大綱)</p> <p>③目標達成の方法 区画整理 3箇所、用排水路 1路線、農道 4路線、ため池 2箇所</p>		<p>④全体計画 (年度別整備内容) (事業費)</p> <table border="1"> <tr> <td>平成27年度</td> <td>測量・設計</td> <td>50百万円</td> </tr> <tr> <td>平成28年度</td> <td>区画整理 用排水路 農道 ため池改修</td> <td>250百万円</td> </tr> <tr> <td>平成29年度</td> <td>区画整理 用排水路 農道 ため池改修</td> <td>300百万円</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>区画整理 用排水路 農道 ため池改修</td> <td>300百万円</td> </tr> <tr> <td>平成31年度</td> <td>区画整理 用排水路 農道 ため池改修</td> <td>250百万円</td> </tr> <tr> <td>平成32年度</td> <td>区画整理 用排水路 農道 ため池改修</td> <td>250百万円</td> </tr> </table> <p>□既整備内容・期間・事業費 ・該当なし</p>		平成27年度	測量・設計	50百万円	平成28年度	区画整理 用排水路 農道 ため池改修	250百万円	平成29年度	区画整理 用排水路 農道 ため池改修	300百万円	平成30年度	区画整理 用排水路 農道 ため池改修	300百万円	平成31年度	区画整理 用排水路 農道 ため池改修	250百万円	平成32年度	区画整理 用排水路 農道 ため池改修	250百万円
平成27年度	測量・設計	50百万円																			
平成28年度	区画整理 用排水路 農道 ため池改修	250百万円																			
平成29年度	区画整理 用排水路 農道 ため池改修	300百万円																			
平成30年度	区画整理 用排水路 農道 ため池改修	300百万円																			
平成31年度	区画整理 用排水路 農道 ため池改修	250百万円																			
平成32年度	区画整理 用排水路 農道 ため池改修	250百万円																			
		<p>(3) 中・長期計画等の位置付け やまなし農業ルネサンス大綱 (H19~H26) 甲斐市総合計画 (H18~H27)</p>																			
<p>(2) 整備内容と整備量</p> <p>①整備内容 区画整理36ha、用排水路0.9km、農道1.3km、ため池 2箇所</p> <p>②整備期間 平成27年度~平成32年度</p> <p>③総事業費 約1.4億円 (国費7.7億円(5.5/10)、県費4.2億円(3/10)、市費等2.1億円(1.5/10))</p>		<p>(4) 事業位置等図</p> <p style="text-align: center;">省略</p>																			

2. 評価シート

<p>(1) 公共関与の妥当性 (行政が行うべき事業か) 〈妥当〉・妥当でない</p>	<p>(5) 整備手法の有効性 〈妥当〉・妥当でない</p>
<p>(理由) 本事業は、食料・農業・農村基本法に位置づけられている農業の持続的発展、食料の安定供給、多面的機能の発揮に資するものであり、行政が行うべきものである。</p>	<p>(理由) 農業生産基盤を一体的に整備することで、営農条件が改善されるため、農業の振興には最適な事業であるとともに、主に区画整理を進めることで農業経営の安定化を図り、同時に継続的な農地の保全につなげるものである。 また、整備内容は施設の長寿命化やコスト削減を考慮した計画としている。</p>
<p>(2) 事業執行主体の妥当性 (県が行うべきか) 〈妥当〉・妥当でない</p>	<p>□他の整備手法の有無 〈有・無〉</p>
<p>(理由) 本事業は、農業生産基盤を総合的に整備して農作業の効率化や農業経営の安定化を図るものである。 また、「土地改良法施行令」第50条5項により県営事業で申請すべき事業要件にも合致している。このため県が主体となって行うべきである。</p>	<p>(状況) 中山間地域のような生産の条件不利を改善するためには、本事業の他に適した事業はない。</p>
<p>(3) 経済効率性 〈妥当〉・妥当でない</p>	<p>(6) 環境負荷への配慮 〈妥当〉・妥当でない</p>
<p>(理由) ・費用(C)=15.0億円 (内訳) 区画整理7.8億円 農道2.0億円 用排水路3.5億円 ため池1.7億円 ・便益(B)=19.9億円 (内訳) 作物生産効果8.0億円 品質向上効果0.3億円 営農経費節減効果7.3億円 維持管理費節減△0.2億円 走行経費節減効果3.1億円 災害防止効果1.4億円 ・費用便益比 (B/C) = 1.32 ・費用便益比 (B/C) は国の採択基準 1.0 を超えている。</p>	<p>(理由) 本事業の実施にあたっては、大規模な開発による自然環境への影響を抑制し、既存施設の改修を中心とすることで、環境への負荷の軽減を図る。 区画整理や農道工事では、土の切盛量を少なくするなど、現状の地形に応じた計画とする。 なお、工事による生態系、景観等への影響があると判断された場合には、回避、代替、低減などを踏まえた対策を講ずる。</p>
<p>(4) 事業実施・規模の妥当性 〈妥当〉・妥当でない</p>	<p>(7) 事業計画の熟度 〈妥当〉・妥当でない</p>
<p>(理由) 地区内の営農条件改善に必要な整備量としている。 □同等施設等(計画を含む)の有無 〈有・無〉 (状況) 新設若しくは老朽化した既存施設の改修であり、機能を代替する施設はない。 □必要整備量の根拠 (状況) 区 画 整 理： 区画の整形、集団化、担い手への集積等農作業の省力化を図るためのもので、作業効率が悪い農地を対象とした。 用 排 水 路： 老朽化により用水の安定確保や排水能力に支障を来している施設を対象とした。 農 道： 農作物の運搬に必要な幅員が確保されていない農道を対象とした。 た め 池： 老朽化により堤体からの漏水の発生や取水施設の破損等、ため池機能が低下している施設を対象とした。</p>	<p>(理由) 事業の円滑な推進のため地域住民が参加する事業検討会を開催し、合意形成が得られたものを整備対象とし、事業計画を策定した。 また、事業を進めるうえで地域間の連携や合意形成が重要であることから地区内の地区代表者で構成する「双葉土地改良事業推進協議会」を立ち上げ、円滑な事業推進を図るなど地元の熟度は高い。 《 総 合 評 価 》 〈妥当〉・妥当でない (理由) 7項目全て妥当と評価されることから、実施が妥当と判断する。</p>

中山間地域総合整備事業 双葉北部地区 一般計画平面図

事業概要			
主要工事	区画整理	3箇所	A=36 ha
	用排水路	1箇所	L=0.9 km
	農道	4箇所	L=1.3 km
	ため池	2箇所	
受益面積	A=57 ha		
総事業費	約14億円		



凡例	
高速道路	
県道	
広域農道	
計画用排水路	
計画農道	
区画整理	
ため池	
農振農用地	

添付資料シート(2)

